早稲田大学スポーツ科学部・学部生の学習意欲に関する研究

A study of learning willingness of the students in the School of Sport Sciences, Waseda University

1K06A031　　入口　鎌伍
指導教員　主査　木村和彦先生　　副査　吉永武史先生

【緒言】

近年、スポーツ系学部･学科が増加している。スポーツ界は、スポンサービジネス、放映権ビジネスなど莫大な経済効果を生み出すビッグ・ビジネスへと今日まで成長を続けてきた。現在、成長過程にあるそのスポーツ界を、今後ますます発展させていく上で、将来を担う人材を育成し増加させていくという課題は明白であり、その意味で大学におけるスポーツ系学部・学科の増加は納得がいくし、今後の活躍が期待される。そのような中、今年6月、本学の生徒に「授業及び学習への態度についての注意」と題された警告が発せられた。学部開設7年目を迎え、学部昇格後だけでも 1000 人以上の卒業生を社会に送り出し、現在もなお増え続けているスポーツ系学部・学科の先駆者的存在である本学にとっては由々しきことである。そこで、筆者は今一度、本学学部生の学習に対する意欲を調査・把握する必要があると感じ、本研究を開始するに至った。本研究は、早稲田大学スポーツ科学部に在籍する学部生を対象として、学習に対する意欲を測ることで、本学学部生の意欲の現状を把握し、その意欲に影響する要因や属性を明らかにすることを主たる目的とする。

【研究方法】

上記の目的を明らかにするために、早稲田大学スポーツ科学部に在学する学部生を対象とした無記名選択式の質問紙による調査を実施した。調査内容は、ⅰ、個人属性、ⅱ、学習意欲に影響を与えると考えられる要因、ⅲ、学習意欲の３つを問う質問によって構成された。

【結果】

・「講義中に他の事を考えることがある」、「講義中に眠気に襲われることがある」の標準偏差が0.73と最も小さいのに対して、平均値はそれぞれ4.55、4.52と20項目の中で１番目、２番目に高いことから、多くの生徒が多かれ少なかれ授業中、上の空であったり、眠気に襲われたりしていることがわかる。

・学習意欲得点との関係を見ると、属性の中では唯一、「入試区分」（スポーツ推薦と一般入試）との一元配置の分散分析で有意性が認められた。一方で、学習意欲に影響を与えると考えられる要因の中では、「あなたは勉強面において目標としている、または尊敬している人物がいますか？」という質問の回答との２つの母平均の差の検定で有意差が認められた他、「単位の取得状況に不安を感じている」という質問の回答との低い負の相関関係が見られた。

【考察】

調査の結果、「講義中に他の事を考えることがある」、「講義中に眠気に襲われることがある」という質問に対する回答の平均値が非常に高い上に、標準偏差が最も小さいことから、生徒の多くが多かれ少なかれ授業に集中できていない現状が明らかになったと言える。

スポーツ推薦生と一般入試生の間で、学習意

欲得点において有意差が見られたが、因子得点の中で有意差が見られるのは学習姿勢因子のみである。また、学習姿勢因子では「所属」と「活動頻度」においても有意差が見られる。この結果から見て、スポーツ推薦生を含む体育会の生徒はその場の雰囲気や状況に呑みこまれてしまっており、これが一般入試生との差につながったのではないかと考えられる。

勉強面において目標としている、または尊敬している人物がいる、ということが有意に働いているのは学習興味得点のみである。そして、同じく学習興味得点に影響を与えている項目は、「大学生活において明確な目標を持っている」である。このことから、自らが進むべき、または進みたい方向が見えているからこそ、学習に対しても興味・関心が湧いてくるのだと考えられる。一方、単位の取得状況に不安を感じている生徒は負のスパイラルに陥っていると考えられる。